

園と小学校『共につくる スタートカリキュラム』研修会

2月19日、教育振興課主催で、越前市内の全ての園と小学校が一堂に会し、福井県幼児教育支援センターによる園と小学校『共につくるスタートカリキュラム』研修会が行われました。各園から園長や5歳児担任、各小学校からは1年生担任や教頭・教務主任などの担当者が参加し、熱心な話し合いがもたれました。研修会には、このみらいの職員と市内の幼児教育アドバイザーも参加させていただきました。その内容についてご紹介します。



～福井県幼児教育支援センターによる概要説明～

【018(れいわ) 0歳から18歳までつながっている】

「令和の日本型学校教育」に示されているように、各学校段階において目指す学びの姿は共通している。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。

【幼小接続を全校の取組とする意義】

“自立した学習者を育成するヒントは幼児教育にある。幼児教育の環境を通した教育は「個別最適な学び」の原理である”との奈須正裕氏の言葉を引用。

【要となる架け橋期】

『学びをつなぐ希望のバトンカリキュラム018(れいわ)』 R7.3改訂予定。学びが自覚化していく架け橋期(5歳時から1年生の2年間)を要として、0歳から18歳までを自己発揮し遊び・学び続ける「探究者」として資質・能力を育んでいく。

～小学校区に分かれてグループワーク～

【令和7年度1年生の架け橋期カリキュラムを構想】

「子ども観」「学習観」「指導観」の捉えなおしを行いました。捉えなおしとは、指導者自身が子どもの見方を広げ、考えを揺さぶることです。各園の5歳児担任から遊び・学びのプロセスを聞き、その発展として5歳児の強みを生かした新1年生のスタートカリキュラムを構想しました。

～最後に、福井県幼児教育支援センターから～

【1年生の「やりたい」を大切に】

学校探検を例にお話がありました。「学校のはてなを調べたい!!」⇒「校内を走ってしまう」⇒「振り返り」⇒「園での体験から静かに歩かないといけなかった!と気付く」⇒「廊下は走らないでおうとルールをつくる」というような自由度の高い学校探検にすることが求められています。そのためには学校全体の理解が必要です。とお話がありました。

